

学習指導要領		都立広尾高校 学カスタンダード
<p>(1) 世界史の扉</p> <p>自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。</p> <p>ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。</p> <p>イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。</p> <p>ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史がとらえられることに気付かせる。</p>	<p>地理的知識と複合して、歴史の大きな流れを理解することができる。</p> <p>自然環境というテーマを通して、歴史的事例を知る際の、地理的視点の重要性に気付くことができる。</p> <p>日本と諸地域の接触・交流にかかわる事例を知り、世界史の中に日本史も位置づけられているという視点をもつことができる。</p> <p>砂糖や紅茶などの生産物を事例として、交易による世界規模のつながりを理解し、長期的な社会変化という視点をもつことができる。</p>	
<p>(2) 諸地域の形成</p> <p>人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。</p> <p>ア 西アジア世界・地中海世界 西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>多角的視点をもって地理的知識を背景にした歴史的变化を理解することができる。</p> <p>メソポタミア文明、エジプト文明を事例に、古代文明における発明が、現代に至るまで使用されていることを知る。</p> <p>ギリシアのアテネを事例に、社会における身分階級の発生理由と参政権の拡大経緯を知る。</p> <p>ユダヤ教教義とキリスト教教義の因果関係を理解し、キリスト教の成立経緯を理解する。</p> <p>帝政ローマの中でキリスト教が受け入れられ国教化する経緯を事例に、皇帝権威の根拠と社会構造の関係を理解する。</p>	

学習指導要領		都立広尾高校 学カスタンダード
<p>イ 南アジア世界・東南アジア世界</p> <p>南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握させる。</p> <p>ウ 東アジア世界・内陸アジア世界</p> <p>東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。</p> <p>エ 時間軸からみる諸地域世界</p> <p>主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。</p> <p>ア イスラーム世界の形成と拡大</p> <p>アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。</p>	<p>インドにおける自然環境と文明・王朝の概要を学び、インドの人々のルーツ・文化を知る。</p> <p>陸上・海上における他地域と交流が、アジア世界の形成を促していった事を知る。</p> <p>代表的な王朝変遷を知る。</p> <p>周王朝の封建制・秦王朝の郡県制・漢王朝の郡国制を事例として、中央と地方の権力構造の関係を理解する。</p> <p>『史記』の成立を事例に、歴史学と記録の関係を理解するとともに、史料批判の視点を学ぶ。</p> <p>「金印」「遣唐使」などを事例にして、中国大陸と日本の交流と、その日本史への影響を知る。</p> <p>『大唐西域記』『南海寄帰内法伝』『製紙法』の伝播などを事例に、東アジア世界の広がりを理解する。</p> <p>世紀ごとの勢力図をとおして、それぞれの地域の変遷を連続的にとらえる視点をもつことができる。</p> <p>陸路や海路のそれぞれで取引された商品を事例に、交易と交流の視点をもつことができる。</p> <p>イスラームの成立過程を事例に、スンナ派とシーア派の思想的違いが、現代社会の問題にどのように関連しているのか、多角的に考察する。</p> <p>イスラームの伝播を通して、ユーラシア大陸の地理を反復的に学習する。</p> <p>イスラーム世界における基礎知識・単語について理解する。</p>	

諸地域世界の交流と再編

学習指導要領		都立広尾高校 学カスタンダード
<p>イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。</p> <p>ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握させる。</p> <p>エ 空間軸からみる諸地域世界 同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>(4) 諸地域世界の結合と変容 アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。</p> <p>ア アジア諸地域の繁栄と日本 西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とそこでの日本の位置付けを理解させる。</p>	<p>封建社会の成立と変動を事例に、階級社会の様相と王権の変容を学ぶ。</p> <p>神聖ローマ帝国皇帝とローマ教皇の対立を事例として、政治的権威と宗教的権威の相違や、社会に対する影響を多角的に考察する。</p> <p>宋と北方遊牧騎馬民族の抗争を事例に、北方遊牧騎馬民族の生活や文化を知る。</p> <p>『三大陸周遊記』『世界の記述』を事例に、諸地域世界の交流の様相を知り、後の大航海時代へ知識をつなげる。</p> <p>地域ごとの変遷を理解するとともに、同時代的な関連性に気付き、一地域の社会変化が世界全体に波及する様相を“世界の一体化”としてとらえる視点をもつことができる。</p> <p>定期テストなどを通して、因果関係を文章として表現することができる。</p> <p>「朱子学」「六部」「魚鱗図冊」「賦役黄冊」などを通して、中央集権国家体制を形成するために行われる思想統制や社会制度について理解する。</p> <p>「朝貢貿易」を通して宗主国と属国の関係を知り、中華思想を軸とした東アジア世界の概念を理解する。また、清仏戦争や日清戦争を後に学ぶ際の知識としてつなげる。</p> <p>「満漢併用」「辮髪」「文字の獄」などの事例を通して、少数民族による支配の工夫や、思想統制について多角的に理解をする。</p>	

学習指導要領	都立広尾高校 学カスタンダード
<p>イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。</p> <p>ウ 産業社会と国民国家の形成 産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。</p> <p>エ 世界市場の形成と日本 世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とその中で日本の位置付けを理解させる。</p> <p>オ 資料からよみとく歴史の世界 主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。</p>	<p>「十字軍」をきっかけにして、ルネサンス、宗教改革が起こり、主権国家体制の成立に結びつく因果関係を理解する。 大航海時代をきっかけにして、アメリカ大陸にヨーロッパ世界の影響がおよび、その後のアメリカ史につながることを理解する。 ルネサンスを事例として、価値観の変化によって美術などの文化的特徴に影響があらわれることを知る。また、価値観の変化から宗教改革が行われることによって、宗教戦争をはじめとした社会変容につながることを理解する。 主権国家体制の成立過程から、近代国家の特徴を知り、その過程で絶対王政をとらえる。また、近代国家の成立と重商主義政策の因果関係を理解し、産業革命へのつながりを多角的に理解する。</p> <p>産業革命をきっかけにして、社会構造が変容したことを理解し、社会契約説や社会主義といった思想が形成されていったことを知る。 主権国家体制の事例として、イギリス革命の過程を通じて議会主権を学ぶとともに、資本主義社会が形成された観点と合わせて、アメリカ独立戦争との因果関係を理解する。</p> <p>産業革命の結果、植民地獲得が世界市場の形成にかかわる社会的問題になったことを、日本の開国やインド帝国成立などを事例として理解する。</p> <p>図版や史料を読み取り多角的に考察し表現することができる。</p>

学習指導要領	都立広尾高校 学カスタンダード
<p>(5) 地球世界の到来</p> <p>科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。</p> <p>ア 帝国主義と社会の変容</p> <p>科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。</p> <p>イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現</p> <p>総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。</p> <p>ウ 米ソ冷戦と第三世界</p> <p>米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について考察させる。</p>	<p>国際協調と国益などの観点から、主要国の国際関係を整理しつつ、現代社会につながる課題を理解することができる。</p> <p>ドイツを中心としたヨーロッパの国際関係を事例に、帝国主義政策から第一次世界大戦勃発の経緯を理解することができる。</p> <p>シオニズムを事例に、民族意識と国家形成を理解し、第一次世界大戦を起因とするパレスチナ問題を整理することができる。</p> <p>総力戦をきっかけとして、科学技術の向上、女性地位の向上などが起きたことを理解する。</p> <p>ロシア革命とソヴィエト連邦の成立を学び、社会主義国家に対する国際社会の対応を理解する。</p> <p>アヘン戦争を事例に、国内利権が外国に渡った場合の社会的問題を理解する。</p> <p>洋務運動を事例に、政治思想と社会制度の関係性を理解する。</p> <p>第一次世界大戦後のドイツ社会経済を事例に、世界規模での経済的一体化とその影響力を理解する。</p> <p>米ソの社会的、経済的思想の違いを理解し、戦後復興の中で、どのように世界に影響を与えたのか理解する。</p>

学習指導要領		都立広尾高校 学カスタンダード
	<p>エ グローバル化した世界と日本 市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。</p> <p>オ 資料を活用して探究する地球世界の課題 地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<p>各地域の社会問題や紛争を具体的に数例とりあげ、これまでの歴史的事項と関連付けながら、多角的な視点で理解することができる。</p> <p>世界の中で日本の在り方を考え、共存できる持続可能な社会について多角的な視点で考えられる知識と思考力をつける。</p>

